

## 鉄砲洲神社詩吟 素読論語

(平成 27 年 10 月 2 日)

【四六】原壤 夷して俟つ。子曰く、幼にして孫弟ならず、長じて述ぶること無く、老いて死せず。是を賊と為すと。杖を以て其の脛を叩く。

「原壤」は孔子の幼馴染です。「夷して」とは、うづくまるということですが、どうも脛を叩いていますので、非常に気に入らない座り方をしたのだと思います。

今の時代ですと、完全に腰を下ろさないで座る形をとっている。つま先でそんきよの形です。夷敵の夷ですから、みるからに失礼な座り方をしている、孔子はよっぽど腹を立てたのでしょう。いろいろ考えるとそういう座り方だったのだと思います。

孔子がいうには、お前を小さい頃から知っているけれど、目上の人に対してちっとも敬まおうとしない。実に無礼なまま失礼の限りを尽くして育ってきた。大人になっても、褒められるようなことは、ひとつも聞かなくてこない。何も良いことをしないまま歳を取ってしまって、今の歳になっても死にもしない。人に迷惑ばかりかけているような者は、ごく潰しであると言って杖で脛を叩いた。

孔子でさえ非礼極まりない人間だと思ったら、杖で相手を叩く。このような話は孔子の話の中にめったに出てこないですが、相当に腹を立てたのでしょう。または小さい頃から知っている幼馴染だから、周りに対する教訓にしてビシビシ叩いたというところではないでしょうか。

現代に置きかえれば、良い友達です。なかなかこのような友達はいない。最近ある方と話をしています、その方はだいぶお年を召していて、認知症が出てきたなと感じ、話が重複し話が乱れてきた感じになってきたそうです。私は「素直に教えてくれる友人知人をお持ちですか」と聞くと、かなり人脈の広い人ですが「いやあ、なかなかいない。一人だけいるが、他の人が言うと腹が立つが、自分が信じてくれる人が言うと、そうかなと思う」とのことでした。

幼馴染で非常に親しいという意識があると口で言っても分からないなら、叩いてしまえということが孔子の中にあるから、私も仲の良い人は何人もいるので、少し鈍くなってきたら杖で叩いてみようかなと、ちょっと思いました。今の時代でしたら、少し認知症気味だと思ったら、言葉を持ってその脛を叩く。言葉で「ちょいとおかしいよ」と言ってくれる人間がいると良いなと、置き換えてみました。

この間、ひろさちやさんの本を読んで良いことが書いてあるなと思いました。

今の日本は、風船みたいなもので、お金という資本主義の社会は、一生懸命膨らましていないとお金が回らないから、どんどん膨らませる。ゴム風船がパンパンに張れあがって、あとは破裂するだけ。今の日本は破裂する寸前まできています。破裂してしまうのもしょうがないです。脛を叩くような人達がいてくれると良いのですが、いない。

何の不況下かと言えば、経済不況ではなくて、政治不況だと思います。ひろさちやさんが本の中で書いていました。似通った話なので、ご紹介いたしました。

ひろさちやさんは宗教家です。世の中に伝わるようにするには、分かりやすい字にしようと、自分なりの字を発見したということらしいです。若い頃の本を見ると、立派な書を書いています。もちろん立派な書も書けるのでしょけれども、それは卒業したようです。